

防火・防災に向けて

NO. 1
文責 田代

各種災害は突然発生する事が殆どです。その際の対策として一番大切な事は、対応策を事前に考え共有する事です。

ただし集合住宅の場合、全員が理解を統一しておく事は最善ではありませんが、現実的ではありません。そこで自治会役員を始の一人でも多くの住民が対応策を共有しておく事が大事です。以下に共有すべき事を列記しておきます

○避難経路の確認と周知徹底

火災発生場所毎避難経路を事前確認しておく事での危険分散を



○指揮系統の確認

主指揮者 ⇒ 理事長(602棟内) ⇨ 通報連絡班

副指揮者 ⇒ 副理事長(308棟) ⇨ 消火班、避難誘導班

各階班長は発災後、指揮者の指示に従い、住民の避難を誘導する。又主指揮者不在の場合、副指揮者が指揮を行う。

原則、主指揮者は自治会理事長、副指揮者は2名副理事長と管理人とし、夜間は理事長・副理事長の指揮に従って下さい。

○要介助者の確認

当マンションも出来て30年上経過し高令化も進み、自身での避難に際し難しいケースも出て来ます。又、小さな幼児等の場合介助が必要となるケースもあります。そういった場合に備え、事前に管理人及び管理組合役員間の情報を共有し、各人の行動担当を決めておく。

<EX>

要介助者毎、介助担当者を設定、スムーズに行動出来る様にしておく。
※ 主副担当者を決めておく。

○消火器の使い方及び消火方法

さいわいは事に当マンションに於いては、オール電化という事で炎の上がるケースは基本少なくなっています。ただし簡易ボンベやコンセント等による発火というケースもあり、又最近ではバッテリーからの火災も増えてきます。

油火災 → 火の元酸素の供給を断つ。毛布等をかぶせる、水厳禁

コンセント(バッテリー) → 電源を切る

(消火器)

1. 保管場所から火元まで
2. ホースをはずし、ノズルを押える
3. 消火器を倒す
4. 引き起してホースを火元に向ける
5. 親指を離し放水する。

※ 消火器室内位置は別記

防火訓練要領

No. 3

DATE

○集会室集合

いざという時の為、防火・防災の基本的行動そして考え方を共通認識として持つ様にしましょう。

○消火訓練

駐車場にて訓練用消火器を使い、消火訓練を行います。

○訓練まとめ

理事長（指揮者）による訓練の総括

○何故、今行おうのか。

当マンションは、幸いな事にオール電化という事で、通常季節では火を使う事はありませんが、冬になりますと、カセットガス卓上コンロや特に火災の原因の上位になる（消防庁発表 3位、1位は炊火）灯油ストーブの利用が多くなります。

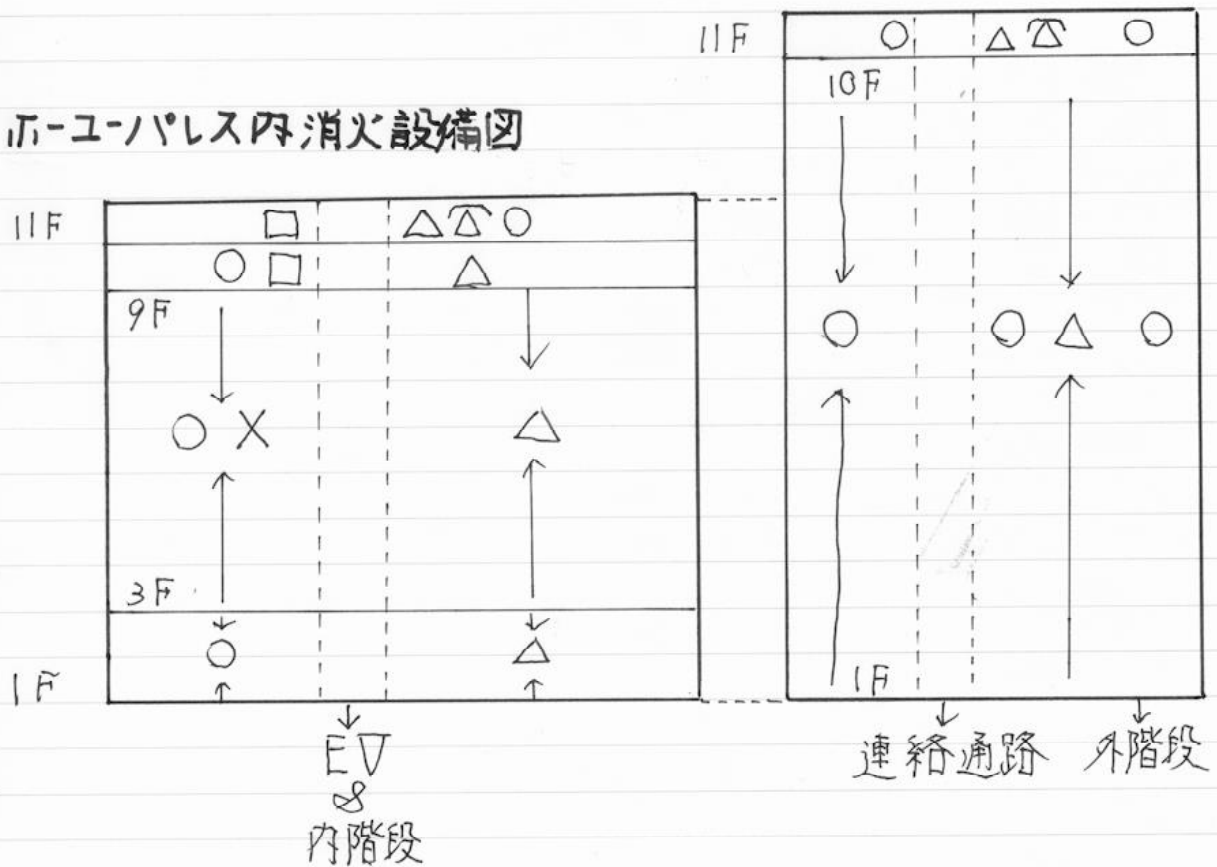
最近のストーブは転倒又は強い衝撃時自動消火するものが殆んどですが、それでも冬期は火災の多い時期となりますので、他人事と思わず、常日頃から注意しておく事が大切なので、行います。

<参考>

○ 自衛消防組織図



○ 1F-10Fパレス内消火設備図



- 消火器 ○
- 放水口 ×
- 非常電話 △
- 火災報知機 △ (非常ベル付)
- 消火ホース格納箱 □